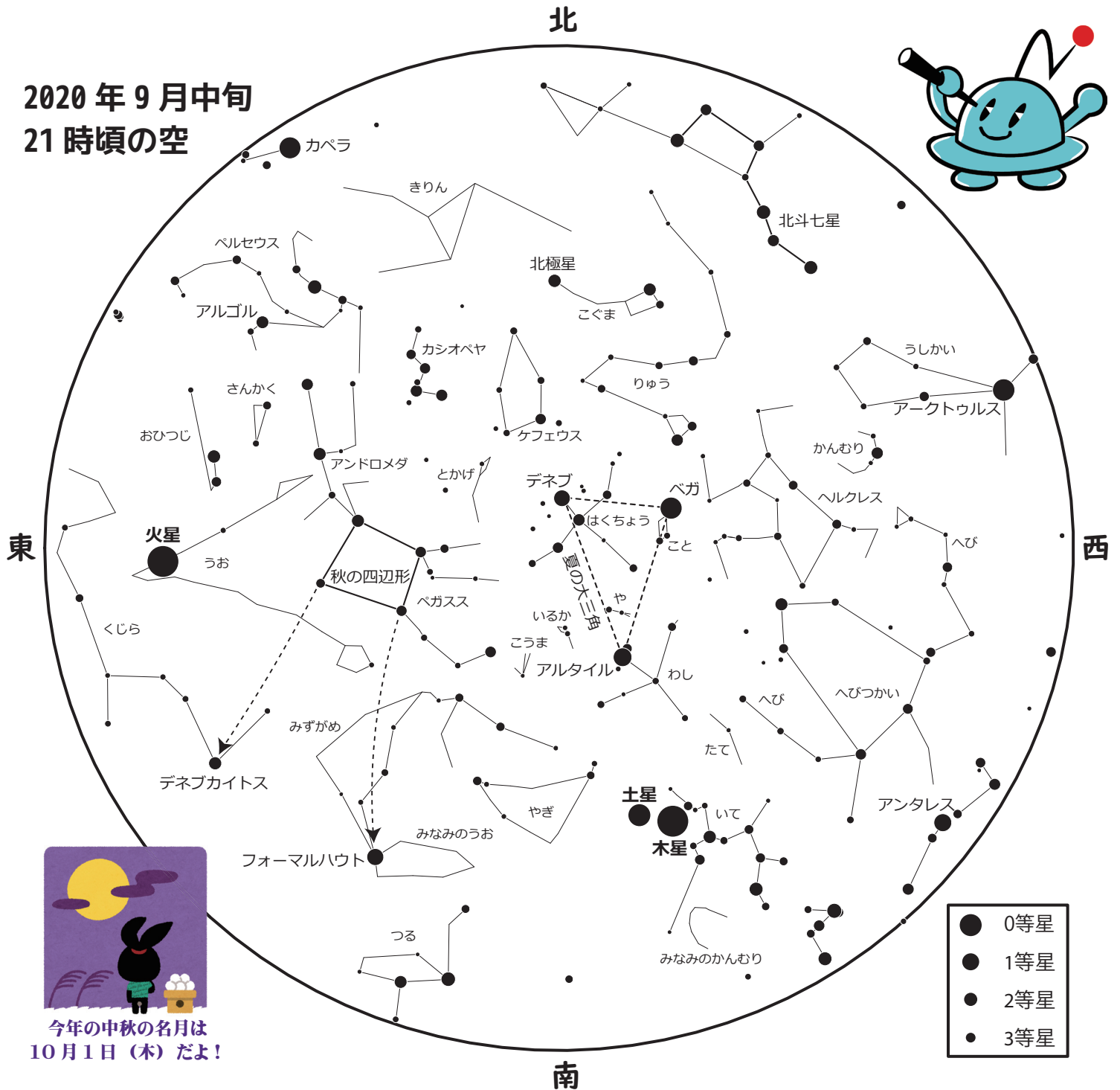
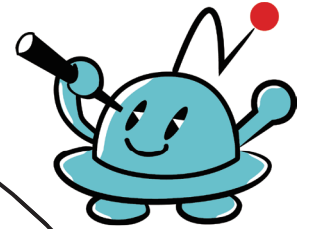


阿南市科学センター

9月の星空案内

2020年9月中旬
21時頃の空



今年の中秋の名月は
10月1日(木)だよ!

まだまだ日中は暑い日が続いていますが、秋の虫の音が響く夜に、心地よい夜風にあたりながら、星空を眺めてみるのはいかがでしょうか。頭上には夏の大三角がまだ見やすい一方で、東の空に目をやれば秋の星座たちが顔を出しています。北東の空には小学4年生も学習するカシオペヤ座、さらに東の空には秋の四辺形（ペガサス座の一部）が見えています。秋の四辺形の西の辺と東の辺をそれぞれ延長していくと、1等星フォーマルハウト（みなみのうお座）と、2等星デネブカイトス（くじら座）を見つけることができます。なお、南よりの空には木星と土星が見え、さらに東の空には約2年ぶりに地球と接近中の火星が昇り、惑星たちの強い輝きが目にとまることでしょう。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

9月の月の満ち欠けと惑星について



満月
2日



下弦
10日



新月
17日



上弦
24日

9月の天体観望会で月が見える日時は？



9/26(土)・・・全ての回で観察可能

10/1(木)は科学センターで中秋の名月の観望会を行う予定! 詳しくはホームページを見てね☆

水星：9月中旬頃、日没後西のごく低空に位置し観察は難しい。【約-1.1等】

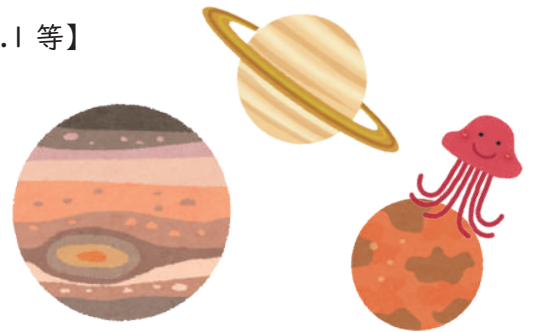
金星：夜明け前、東の空で見える（明けの明星）。【約-4.1等】

火星：下旬以降、夜9時過ぎから東の空で観察しやすい【約-2.2等】

木星：宵の口から南寄りの空で見え観察しやすい。【約-2.4等】

土星：宵の口から南寄りの空で見え観察しやすい。【約0.4等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさとなる。



注目の天文現象など

【約2年ぶり！地球と火星の接近！！】

2020年は約2年ぶりに地球と火星の接近が起こります(図1)。最接近は**10月6日(火)**となり、距離にして約6210万kmまで近づきます。ちなみに2018年は約15年ぶりの火星大接近(距離約5760万km)ということで大きな話題となりました。実は2年前と今年の最接近時の見かけのサイズは約7~8%の違いしかなく、2020年の接近は『**準大接近**』とも言われています。なお地球と火星の接近は約2年2ヶ月おきに起こり、同じ接近でも2027年は小接近と言われ、大接近時と比べてサイズが約40%も異なります。

最接近時は図2のように東寄りの空で見え、明るさはマイナス2.6等に達し、その赤くて強い輝きは街中でも観察することができるでしょう。10月6日(火)は当館で火星観望会を行う予定ですが、最接近の前後2週間においても、見かけのサイズは3~4%しか変わりませんので、毎週土曜日に行っている定期の天体観望会でも十分大きな火星が見られるでしょう(9月下旬~10月中旬頃)。

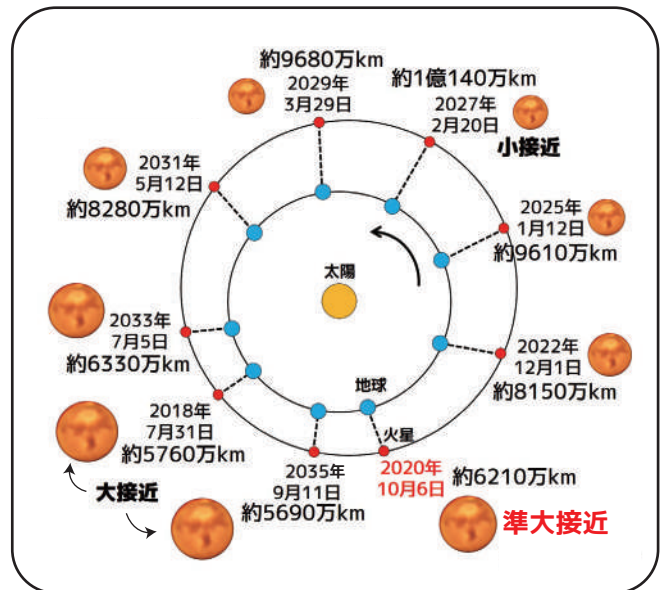


図1：2018年~2035年までの地球と火星の接近 (作図：阿南市科学センター)

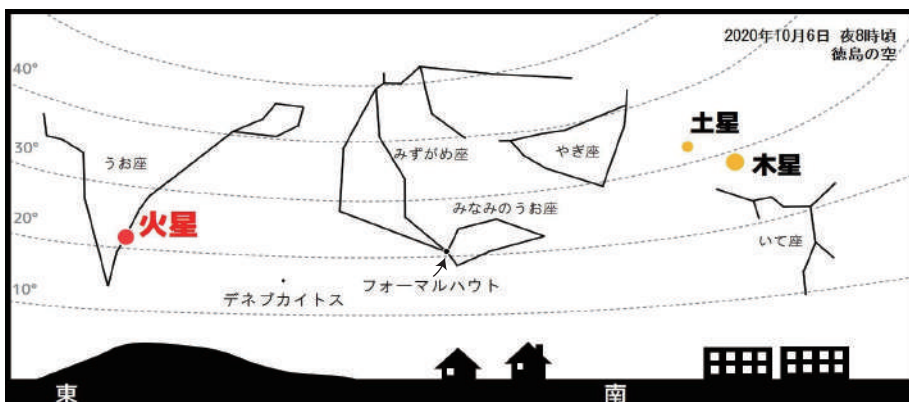
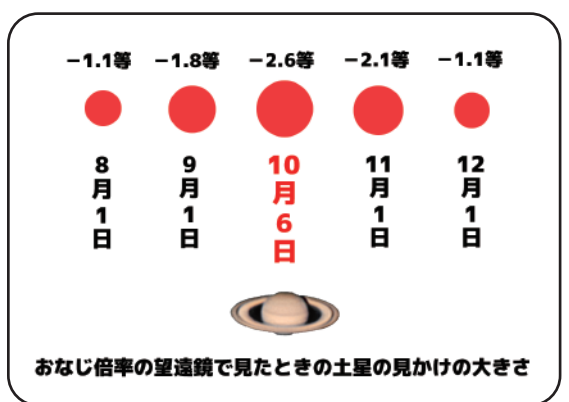


図2：今年の火星準大接近時(10月6日夜8時頃)における火星の見える位置 (作図：阿南市科学センター)



おなじ倍率の望遠鏡で見たときの土星の見かけの大きさ

図3：今年の火星の見かけのサイズ変化と明るさ (作図：阿南市科学センター)